

まだまだ 10 年！CNAC は、これからも海辺の体験学習の普及目指して、真に本物の情報を発信していきます！

～ CNAC 第 10 回全国フォーラム、海辺の文化とくらし体験エコツアー レポート ～

第 10 回 全国フォーラム担当理事 森川 雅行

2 月 6 日、7 日に千葉県館山市で開催された全国フォーラムと海辺の文化とくらし体験エコツアーの速報レポートです。詳細は、後日 CNAC の HP にアップされます。

平成 18 年に活動を開始した NPO 法人「海に学ぶ体験学習協議会(CNAC)」の記念すべき第 10 回全国フォーラムが「房総に根づく海辺の文化とくらし I N 館山」をテーマに約 60 名の参加を得て南房総たてやま夕日海岸ホテルで開催されました。フォーラムでは、基調講演、房総を舞台に活躍している NPO 等による四つの活動事例報告、パネルディスカッションが行われました。



フォーラム冒頭、主催者挨拶として、三好利和 CNAC 代表理事からは、「館山開催に関する関東地方整備局、館山市の協力に対するお礼。全国で活動する個々の NPO をつなぐ全国組織として、今後とも多くの仲間とともに体験の場を増やし、子どもから高齢者まで正しい海の理解増進に努力。館山は第 1 回の海辺の指導者養成講座が開かれた地であり、本日のフォーラムに期待」の主催者挨拶がありました。続いて、国土交通省佐々木

宏海洋・環境課長からは「初めての館山で南欧風の雰囲気を感じ。海の環境はふれあい学ぶことが重要、全国各地の直轄港湾事務所では海辺の自然学校を開催。今後、環境の専門家、NPO、学校関係者らとタッグを組んで取り組み強化」との来賓挨拶がありました。引き続き、地元館山市長の金丸謙一様からは、「館山市は 34.3 km の海岸線。外海の太平洋と内湾の東京湾に大別。平成 12 年に国から【観光とレクリエーションをテーマに】特定地域振興重要港湾の指定。平成 22 年には、日本一長い夕日栈橋、たもとなぎさの駅を整備、海を中心とした街づくりに努力。孫たちは泳ぐならプールだが、海や山に親しんで大きな感動を覚えることが重要、今後の CNAC の活動に期待」との地元来賓挨拶がありました。さらに、一般社団法人みなと総合研究財団の鬼頭平三理事長から「財団の中に CNAC 事務局を設置。法人改革で WAVE を衣替えをして 5 年、行政と民間をつなぐシンクタンクとして役割を発揮。30 年前の海水浴は 4000 万人が現在は 900 万人。海離れが進み中、本日のフォーラムを通して活動強化」のご挨拶をいただきました。





基調講演(荒井氏)

続いてフォーラムに入り、荒井 一利 鴨川シーワールド総支配人 兼 館長 兼 国際海洋生物研究所所長に、基調講演「房総から発信する鴨川シーワールドの役割」を行っていただきました。基調講演では、「鴨川シーワールドは、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)に所属。動物園・水族館の使命は、○リクレーション○教育○種の保存○調査・研究の4つあり、今日は種の保存について説明。種

の保存は生息域内保全と域外保全に分類。定置網にかかったり座礁したりしたイルカやアザラシ、トドの保護。元気なら海に返し、弱っていれば治療。打ちあがったイルカには水をかけることが重要。アカウミガメの産卵の保護活動では、産卵巣に看板を設置して保護、台風による川の氾濫、波をかぶると卵が死滅するので施設に移植、孵化後に放流。人間の介在、保護によるひずみがあり、やるせない気もある」との話でした。

続いて、房総地域の海辺の活動事例報告に入り、櫛原八千代様(くじら食文化研究会おかみさんの会代表 (株)南美舎 代表取締役)からは、「海とのつながり、クジラの食文化」として、クジラと出身の和田町とのつながり(昔は内臓と血から肥料製造、くさい臭いを地域として容認、肉はただ等)、全国の鯨料理店のおかみさん達の活動、和田町のおかみさんの会の活動などご自身の精力的な活動を紹介。食を切り口に全国に仲間が広がり、マスコミにも取り上げられるようになった。との話でした。さらに和田の海岸に上がる月の美しさをうたった「浜千鳥」を美声で披露していただきました。



活動事例報告(櫛原様)

石井 博臣氏(館山市経済観光部プロモーションみなと課長)からは、「館山夕日桟橋・“渚の駅”たてや



活動事例報告(石井氏)

まを活用した地域の活性化」として、館山と海の昔からの深いつながり、海を中心としたまちづくりの取り組み、平成14年に館山港港湾振興ビジョンを策定、それに基づきハード(館山夕日桟橋、渚の駅たてやま)を整備、ソフト(観光情報発信、特産品・食事の提供、ビーチスポーツ、ビーチイベント)の実施。それによりクルーズ船をはじめ各種船舶の寄港、高速ジェット船の就航等。一方、課題としては利用者のマナー問題。特に水上バイク。平成

27年には海水浴場のルール条例策定。その中にごみを捨てないという項目まであり、教育の問題と認識。最後に、昨年、夏に撮影された趣味の写真「夕日が富士山に沈むダイヤモンド富士」を披露して

もらいました。

八代 建正氏（NPO おせっ会理事長/(株)シー・デイズ代表取締役）は、「海辺のまちヘライフスタイルシフト」として、おせっ会は、館山商工会議所 50 周年に 2030 年に館山の人口 4 万人を切り、商売できないという危機感から設立。居住地としてのプロモーションを展開。移住相談や婚活ツアーを実施、平成 20 年から累計で相談件数 870、移住完了者 350 人を達成。営利を求めない NPO 活動に限界を感じ、投資を募り株式会社シー・デイズを設立。収益事業として遊び方の提案やインフラ整備を実施。自然を通じてつながる、運動を通して元気になると小さなコミュニティが生まれる。先週の若潮マラソンでもチアチームをつくり、盛り上げた。とのことでした。また、素敵な会の活動を動画にまとめていただきましたが、うまく作動せず、静止画になってしまい申し訳ありませんでした。



最後に、CNAC 設立時からのメンバーである竹内 聖一氏（館山・海辺の鑑定団理事長）が「たてやまの海で学ぶ～根づく海辺の体験活動～」として、自らも移住者であり、外から見た館山の魅力を紹介。海水浴等の従来型観光がじり貧の中、地域課題として、地域自然資源の活用と保全の仕組み、エコツーリズムの可能性を提示。南房総の自然の素晴らしさ、館山湾の南側に位置する沖ノ島の素晴らしさを熱く解説されました。

続いて、CNAC 設立時の副代表理事で現在も会員で顧問でもある佐藤 初雄氏（NPO 法人 自然体験活動推進協議会代表理事/NPO 法人国際自然大学校理事長）をコーディネーター、活動報告者 4 名をパネラー、三好 CNAC 代表理事をコメンテーターとして、パネルディスカッション「海辺の文化とくらしのこれから 10 年」が行われました。

冒頭、佐藤コーディネーターから、1983 年国際自然大学校というボランティア型ではない事業型の NPO を立ち上げ、現在 90 人の職員がいる、千葉自然学校の立ち上げにもかかわってきた等の自己紹介があり、パネルの進め



パネルディスカッション



方として、コーディネーターからパネラーにお題を出し、それに対して 90 秒以内で各自 A3 の紙にキーワードを書き、その意味をパネラー自身の言葉で説明してもらい、適宜三好コメンテーターがコメントを加えるというスタイル。

出されたお題は①一番のうりは？②これからの 10 年③課題（阻害）④課題（お金の考え方、Finance）⑤情報発信⑥持って帰りたいキーワードの六つ。これ

らのお題について、パネラーから当意即妙に答えが出され、それを佐藤コーディネーターが上手にさばき、様々な視点から活発なディスカッションが展開されました。これらを要約してもニュアンスが伝わらないと思いますので、詳細は後日の報告書をご覧ください。



最後のお題⑥持って帰りたいキーワードに対する答えを紹介します。時間の関係からワンワードでの回答になり、**八代さん:ぶれない、石井さん：海（館山の存在に大きい）、竹内さん：続ける（まだまだ 10 年）、榎原さん:これを御縁に。**三好さんからは、CNAC は全国組織、会員支援に努めたい。そのための仕組みづくり、連携に力を注ぎたい。今日は館山の元気をもらって感謝。のコメントがありました。

最後は、佐藤コーディネーターからは、**まだまだ 10 年。これからも真を持って本物、イイモノを作っ**



フォーラム会場風景

て発信していこう。そのためには連携、信用が必要とまとめていただきました。

閉会のあいさつとして小池 潔 CNAC 副代表理事から、「湘南でダイバーという今の仕事の原体験は、5 歳のころ SL で訪れた館山。当時、川崎工業地帯に住んでいて油の浮いた黒い汚い海しか知らず、館山の素晴らしい海、風景に接して感激したこと。移住者が増えているということは、自然の素晴らしさ

もさることながら、館山には人として魅力があるためと考える。本日は多くの皆様にお世話になり、感謝します」との閉会挨拶の後、参加者全員で CNAC の旗を囲んで記念写真を撮り、参加者はそれぞれ多くの気付きを得て、今年の全国フォーラムは幕を閉じました。



その後、フォーラム会場の隣の部屋で、約 35 名の参加を得て交流会が開催されました。冒頭、長年、海を中心とした館山のまちづくりを指導してこられた CNAC 顧問の近藤 健雄様（日本大学理工学部海洋建築工学科 特任教授）の乾杯を皮切りに、パネラーの櫛原様から提供されたいろいろな種類の鯨料理が花を添え、交流会は盛り上がりました。鯨料理は久しぶりに食べましたが、子どもころの固い肉のイメージとは違い、柔らかくジューシーでとてもおいしかったです。楽しかった交流会も CNAC の副代表理事神保 清司（南房総市大房岬自然の家 所長）の地元を代表し、参加者への謝意を込めたあいさつで終了しました。その後、居酒屋、蕎麦屋、カラオケ等で各自、館山の夜を楽しんだようです・・・。



翌日の 2 月 7 日は、「海辺の文化とくらし体験エコツアー」が開催されました。当日は、フォーラム参加者以外にツアーだけの参加者もおられ、バスの定員に近い約 25 名の皆様が参加されました。ホテルを朝 9 時 30 分に出発し、10 分ほどすると沖ノ島に到着。当日は、気温に比べて水温が高いので、対岸の

三浦半島や東京湾口の航行する船が浮かんで見える冬の蜃気楼が発生していました。



沖ノ島には、昨日のフォーラムの活動事例報告をしていただいた竹内 聖一様と奥様がスタンバイしていただいております、さわりとして、珍しい沖ノ島の漂着物を持参していただきました。イルカの耳骨、ハリセンボン、(怒って膨らんだものと膨らんでいないもの)、珍しい貝殻など興味津々で、説明を聞きました。

通常、周囲 1 キロの島を 3 時間程度かけて回るみたいですが、今回は島の中央を通り、西側を回る 1



時間程度のコースです。バスの降車場から島の入り口までの砂浜は、風が強く底冷えしましたが、浜大根の花の歓迎を受けて一步沖ノ島の森の中に踏み込むと温かく包み込まれる感があり、別世界のような感じでした。森の中にはあしたばの植生があり改めて暖かいのだなと感じました。

1923 年の関東大震災で島自体が 1.6m 隆起して現在に至り、2013 年の大島豪雨の際、

この地でも大雨が降り森の循環が起きている。などと説明を受けていると島を突っ切り、対岸に出ました。その浜には、珍しい貝がたくさん打ち上げられており、全員でお好みの貝拾いをしました。参加者がこれ何ですかと竹内さんに尋ねると、間髪入れずに回答するのにはびっくりしました。

西側の海岸性を巡って戻りました。途中、戦時当時作られた日本軍のトンネルや緑の葉の裏側で冬眠しているオーキンカメムシや島最大の樹齢 300 年のタブの木（高さ 18 メートル）を観察、島の守り神宇賀大明神には参加者全員が参拝しました。



沖ノ島の後、会場を渚の博物館（渚の駅たてやま内館山市立博物館分館）に移し、展示物について、学芸員の宮坂 新様に説明をしていただきました。はじめに、1 階の収蔵展示室では、房総の海で使われていた木造の漁船が中央に、漁の際に使っていた漁具、捕鯨道具などが壁際に展示されていて、船もさることながら道具の種類の多さには驚きました。



次に 2 階の企画展示室に移り、房総に伝わる織物（唐襷織、綴錦織）や房州うちわの説明を聞きました。また、隣の常設展示ではイワシの豊漁を祝って網元が漁師等とお揃いの衣装で神社等に奉納する際に着た**万祝（まいわい）**の実物が展示してあり、この風習がカリフォルニアのモントレーにまで伝わっている事実一同驚嘆しました。



博物館見学終了後、当日から就航している伊豆大島への高速船ジェットフォイルの待合所の一角で、館山市の担当者から夕日桟橋の説明を受け、沖ノ島を案内していただいた竹内さんと意見交換をしました。竹内さんから補足説明として、東側のサンゴや沖ノ島にいたという縄文人の説明がありました。意見交換では、最近気になることとして生活系のごみの話が話題になり、最後はくらしと文化になるとの話がありました。意見交換後、昼食、自由行動（桟橋散策、お土産など）

となり、館山駅で 14:00 解散し、すべてのスケジュールが終了しました。

平成 25 年度から実施している三つの広げよう運動の一環として、全国フォーラムを平成 25 年は横浜市、26 年は豊橋市、27 年は館山市で、地元の海で活動している人の話を中心に、それにパネルディスカッションを重ねるかたちで開催してきました。三年目の館山開催は、創意工夫あふれる地域の取り組みを通して、連携や活動の継続、人材育成にご苦労されている様子がよくわかり、今後の CNAC の活動を考えていくうえでもとても有意義でした。館山開催に当たり、活動報告していただいた皆様や国土交通省、地元館山市をはじめとする関係者の皆様に深く感謝いたします。今後とも CNAC の活動に、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。(文責森川、写真編集港)